

映画「ふるさとがえり」

全国地域ロードショー公式パンフレット

誰と生きるか、
何を愛するか、
それが人生――


ふるさとがえり

Going Home

主演 浅江譲二 佐藤仁美
 熊崎雄大(新人) 佐藤 初 山田太一 窪田かね子
 村田雄浩 高畑淳子
 脚本: 栗山宗大 企画: えな「心の合併」プロジェクト/FireWorks
 プロデューサー: 三浦修 撮影監督: 藤田秀紀
 配給: NAKED INC. / 恵那ふるさと映画製作実行委員会

FireWorks 総務大臣表彰受賞記念
 とがえり心をつなぐ上
 のキックオフフォーラム
 シホール 東京都北区王子1-11-
 1100 【主催】東京商工会議所
 フォーラム参加費】
 当日参加: ¥2500
 13:00~16:15 開場
 17:30~20:45 開演
 18:30

FireWorks



浅江譲二 佐藤仁美
 熊崎雄大(新人) 佐藤 初 山田太一 窪田かね子 笑福亭鶴光 斎藤洋介 中丸新将 沼田 爆 小林かおり 河原崎 建三
 村田雄浩 高畑淳子
 脚本: 栗山宗大 企画: えな「心の合併」プロジェクト/FireWorks プロデューサー: 三浦修 撮影監督: 藤田秀紀
 演出: 村田雄浩 衣装: 村島恵子 ヘアメイク: 宇都圭史 スチール: 長谷良樹 CGI: 坂井隆志 編集: 宮崎 恵 音楽: 宮本貴奈/菊地 謙太郎 題字: 尾崎栄蔵
 後援: 消防庁/財団法人日本消防協会 制作: FireWorks 配給: NAKED INC.
 ©2011 / FireWorks / NAKED INC. / 恵那ふるさと映画製作実行委員会

映画公式サイト <http://www.hurusatogaeri.com>

今、「ふるさと」という言葉に、一体どんな意味があるんだろ？

故郷？ 家族？ 帰るべき場所？ それとも…。

「都会に生まれたから、自分にはふるさとながない」。そんな言葉もよく聞かれます。しかし「ふるさと」という響きに、心のどこかがぼっと温かくなったりもします。私たちは、やはりどこかに「心のふるさと」を求めているのではないのでしょうか。それは例えば、大切に想える人や場所との「つながり」のことなのかもしれません。「ただいま」と言えて、「おかえり」と言ってくれる優しい誰か。心地良い何処か。あなたなら、どう思うでしょうか？

新しい「ものがたり」が生まれる時に —

私たちは今、時代の転換点に生きています。

常識が非常識に、正解が不正解に、経済優先で追い求めた「豊かさ」が、深刻な社会問題に反転する。

今までの社会を支えた価値観に、誰もが違和感を感じ始めています。

「幸せな人生」とは、「豊かな地域社会」とは、一体どのようなものなのか？

その問いに、一つの答えはありません。

一人一人の個人が、ひとつひとつの地域社会が、

新しい「ものがたり」を創造していく必要に迫られているのです。

その時に、大切な手がかりになるのが、「つながり」なのではないのでしょうか。

映画「ふるさとがえり」は、現代の「地域社会」が抱える、様々な矛盾や葛藤の物語です。

題材のひとつである「消防団」の現状は、「つながりとは何か？」と、私たちに問いかけます。

「夢」を追い求める主人公の姿は、「私たちは、どこで生きるべきなのか」と、訴えかけます。

「つながり」。その光と影が、「ふるさとがえり」に映し出されているのです。

映画「ふるさとがえり」ひとりとひとつを巡る物語

「ひとり」。「自分の人生の物語」を、愛して、強く生きること。

「ひとつ」。生命や社会の「つながり」の中で、今を生かされていること。

どちらかではなく、私たちは「ひとりとひとつ」の存在で、いなければなりません。

「ふるさとがえり」では、「ひとりとひとつ」を巡る、深い問いかけがなされます。

この映画をご覧になった方々が、ご自分の「人生の宝物」と出会い、

かけがえのない「つながり」を再発見して下さることを、心より願っています。

愛と希望の物語を。今だからこそ、ニッポン中へ—

Hiroki Hayashi



監督
林 弘樹

1974年生まれ。
ものがたり法人FireWorks代表。
「らくだ銀座」で監督デビュー。
企業や自治体、図書館などのプランディング・プロデュースにも関わる。前作「人生ごっこ!？」はミンスク国際映画祭コンペ部門 映画記者審査員特別賞を受賞。

Munehiro Kuriyama



脚本家
栗山宗大

1978年生まれ。
「物語の創造」を通じて、ひと・組織・地域社会の未来をひらく活動を展開。監督・林弘樹と設立したFireWorksは、日本初となる「市民参加型映画事業」のモデルをデザイン、日経地域情報化大賞MJ賞や地域づくり総務大臣表彰を受賞。

Junji Koita



えな「心の合併」プロジェクト代表
小板潤治

1961年、恵那市生まれ。
デザイン会社・ゼロワンカンパニー代表取締役社長。
苦勞と困難の連続だったプロジェクトを支え、映画の完成を導いた。

それは、人生の宝物に出会えるような「ものがたり」



ふるさとの平和を守る亀の子団。



ツリーハウスが秘密基地。



困った事は、駄菓子屋のばっちゃんに相談。



和尚！ どうやったら映画監督になれる？

「大家族」みたいな小さな村で

人間同士の「つながり」が強い、大家族のような栗里村。1990年の夏、相田家の次男坊、勘治は小学生最後の夏休みをむかえていました。仲間たちと秘密基地で遊んだり、ばっちゃんが営む駄菓子屋に通ったりして、楽しい日々を過ごしています。

「亀は神様。お酒飲ませて逃がしてやり」

ある日、亀を拾った勘治たちは、ばっちゃんの言いつけ通りに、亀を川に逃がしてやりました。それをきっかけに、勘治たちは「亀の子団」を結成。ふるさとの平和を守るヒーローを気取って、大はしゃぎをしています。

楽しい夏休みが終わる頃、お寺で開かれた映画の上映会。村のみんなが泣いて笑って感動する光景に、勘治は心が奪われてしまうのです。

「和尚！ 僕、映画監督になりたい」

大きな夢に、勘治の胸がふくらみます。

その後勘治は、心を切り裂くような「悲しい別れ」を経験しながら、「大家族」のような栗里村から旅立つのでした。

「ふるさとの平和は、おれたちが守る！」

そんな約束を、仲間たちと胸に刻みながら――

相田家の人々



相田寿三郎(祖父)
栗里村の頑固な村長



相田豊(父)
消防団の分団長



相田美恵(母)
心優しいお母さん



相田恵介(兄)
東京で働く医師



相田勘治 12歳

12歳の「ボク」と、

32歳の「僕」。

ふたつの時代を結ぶ、

「まちの宝物」とは…?



相田勘治 32歳

20年ぶりの故郷との「再会」

とある事情で映画の助監督を辞めた相田勘治は、故郷・栗里での暮らしを始めることになります。かつて村役場だった振興事務所の職員として、働くことになったのです。

「あの頃とはだいぶ変わった…」

振興事務所の所長は、ため息交じりにぼやいています。少年時代、ともに遊び呆けた仲間たちは、消防団員として地域の防災活動に精を出していました。

その姿に驚く勘治も、無理やり団員にさせられてしまいます。都会暮らしが染み付いた勘治には、消防団の「ノリ」にはちょっとついていけません…。

そんなある日、勘治は市役所に務める百合から、広報番組の手伝いを頼まれるハメに。お互いに初恋の相手だった二人の間には、微妙な空気が流れてしまいます。

消防団活動で生じる、仲間たちとのすれ違い。

広報番組のインタビューにおさめられる、様々な人間の「想い」。栗里の一員として、勘治は新しい人生を模索していきます。しかし、そんな勘治に映画監督としてデビューする誘いが舞い込んで来るのでした…。

どこで生きるべきなのか？ 誰と生きるべきなのか？

深い葛藤の末に勘治が選んだ行動が、栗里の希望となるような「物語」を生み出すことになるのです。



地域の安全を守る消防団。



市町村合併の町で…



あなたにとって「ふるさと」とは？



元気だった、ばっちゃんが…

全国の消防団員、その家族に贈るストーリー！



地域住民
56,000人を
巻き込んだ

映画づくりで絆を結ぶ えな「心の合併」プロジェクト

市町村合併のまち
岐阜県
恵那市

合併して、地域の意識は本当にひとつになったのだろうか？
まちの一体感はどうすれば生まれるんだろう？
思い悩んでいたある日に出会ったのが、「市民参加型」の映画づくりでした。



恵那市役所 職員 可知昌洋 氏

「未来の物語」を創る市民総参加型映画

岐阜県南東部に位置する恵那市は昭和と平成の合併により、13市町村が合併して誕生。合併後、まちづくり活動などが進められてきましたが、中々一体感が生まれませんでした。そんな時、一人の自治体職員が映画制作によるまちづくりと出会います。そして誕生したのが「えな「心の合併」プロジェクト」でした。

「映画で心をついに！」をキャッチフレーズに、「市民総参加」による映画づくりが始まったのです。草の根活動による協賛金集め、ユニークな映画関連イベントの実施などにより、プロジェクトは徐々に一大ムーブメントへと発展。13地区の心の交流や、世代を越えた「つながり」が形成されました。映画の肝となる脚本づくりでは、1000人以上の住民が地域の課題や未来への希望について対話を重ね、プロの脚本家が一つの物語へと仕上げました。更にはプロジェクトの趣旨に共感した著名な俳優や映画スタッフ陣が恵那市に集結、2010年夏に念願のクランクイン。そして2011年春、ついに映画「ふるさとがえり」が完成したのです。

市民の心を繋いだ 6年半のプロジェクト



世代を超え、生きる世界が違う人たちが集まり、同じ想いを共有出来ることは、なかなかあることじゃない。映画づくりが「心のふるさとづくり」であることを非常に強く感じます。恵那市のまちづくりは、これから本番です！



えな「心の合併」プロジェクト 代表 小坂潤治 氏

「市民参加型映画」とは？

ものがたり法人 FireWorks が全国各地で展開している新たな映画製作手法。企画・製作・配給、あらゆる「映画」のプロセスに数多くの地域住民が主体的に参加しながら1本の映画を創り上げる。行政、商工団体、NPO 法人などの地域団体と FireWorks が協働をして映画製作事業を展開する。この取り組みによって FireWorks は「日経地域情報化大賞 MJ 賞(2005)」「地域づくり総務大臣表彰 団体部門賞(2010)」などを受賞した。